

会 議 録

- 1 会議の名称 令和8年度第3回川根本町総合計画審議会
- 2 会議日時 令和8年9月1日（火） 午後3時00分 から
午後4時40分 まで
- 3 開催場所 川根本町役場本庁舎 3階会議室
- 4 出席した者の氏名
 - （1）委 員 小泉祐一郎会長、山田貴之委員、佐々木直也委員、大村敏秋委員、
豊島宏委員、藪下和英委員、和田智保委員、鈴木麗委員、平口慶喜委員、
下嶋恵委員、藤中康彦委員

オブザーバー 静岡県中部地域局長 鈴木正人
 - （2）執行機関 （事務局）経営戦略課
課長 高橋寛明、まちづくり推進室 室長 櫻井久美
主幹 林 三貴
 - （3）傍 聴 人 1人
- 5 内容
 - （1）第3次川根本町総合計画基本構想（素案）について
- 6 会議資料の名称
 - （1）第3回川根本町総合計画審議会次第
 - （2）川根本町総合計画審議会委員名簿
 - （3）第3次川根本町総合計画基本構想（素案）
 - （4）第3次川根本町総合計画基本構想（素案・抜粋版）
 - （5）第3次川根本町総合計画基本計画（たたき台）

7 発言の内容

	(1. 開会) (2. 会長あいさつ) 小泉祐一郎会長 (3. 内容) (1) 第3次川根本町総合計画基本構想(素案)について 事務局説明
会長	まずは序論(資料1:20ページまで)について、意見・質問はあるか。
委員	PDCAからAAR(After Action Review)への転換について、手法の特性(不確実性への対応)を考慮し、工事などの着実な遂行が求められる分野と、試行錯誤が必要な分野で使い分ける書き方にした方がいいのではないか。 「子ども・若者中心」という言葉を、こども家庭庁の「こどもまんなか」に近いニュアンスの言葉に変更してはどうか。
会長	第一印象の違和感は重要である。事務局で検討願いたい。
事務局	持ち帰って検討する。
委員	SDGsの記載について、2030年の期限以降、計画期間の途中で次なる枠組み(SWGs等)に移行する際の整合性をどう考えるか。
会長	20ページまでは基本構想本体ではなく、参考資料的な位置づけである。
委員	「地域共生社会の構築」の記述が単身高齢者世帯にフォーカスしすぎている印象を受ける。全世代的な環境づくりとして表現を整理すべきではないか。 自助・共助・公助の役割分担や、支え合いのまちづくりの具体的な内容がどこに反映されるのか確認したい。
会長	先ほどの手法の件について、PDCAは、有効性や効率性は判断できるがニーズ(必要性)の判断には弱点がある。手法を特定しすぎず、プロジェクトのレベルに応じて使い分ける視点が大事である。
会長	将来像・基本理念・施策体系について、意見・質問はあるか。

委員	将来像や理念が抽象的で、他市町と似通っている印象がある。川根本町ならではの独自性がどこに反映されていると感じるか会長に伺いたい。
会長	キャッチフレーズだけでなく、その下の説明文に「規模を縮小していく社会の中で地域社会をどうしていくか」という町の考え方が比較的是っきり出ていると感じる。
委員	「目指すまちづくり」の6つの施策分野について、どのような経緯でこの分類に至ったのか。
委員	今の意見に追加で、資料1にあった「満足度が低く重要度が高い項目」との連動性を確認したい。 「地域活力の創出」と「共生社会づくり」の並び順に意図はあるか。第2次計画と順序が変わっている理由を知りたい。
事務局	所得向上や豊かな暮らしを目指す「活力」と、福祉・教育等の「共生」の2軸で整理した。縮小社会の中でも活力を出していくという願いを込めて「活力」を先に持ってきた。
会長	施策分野の構造を多層化しすぎる意味があるのか検討の余地がある。危機管理などは、共生社会と親和性が高い。
事務局	持ち帰って検討する。
委員	共生社会の分野に「多文化共生」の視点を入れてはどうか。 教育文化分野の箇所「0歳から18歳」と強調されると、40代などの現役世代が置き去りにされている感覚がある。表現を工夫してほしい。
委員	施策体系の各分野が「縦割り」に見える。基本理念（人・魅力・活力）を軸にして、課の枠を越えた連携が見えるような全体像にできないか。今のままだと「変わり映えがしない」という印象を持たれかねない。
委員	将来像の「住みたい」と「住み続けたい」について、外向けの発信なのか、町民への施策なのかターゲットがわかりにくい。
会長	事務局から補足があればお願いします。
事務局	町長の思いで選択された。住んでいる自分たちが誇れる町にすることが、結果として外の人からも住みたいと思われることに繋がるという風に考えている。

会長	ありがとうございます。他にあればお願いします。
委員	観光の立場からすると、公共交通の利便性など、課の枠を越えた情報共有と柔軟な対応が必要だと感じる。町を活性化しお金を落としてもらう仕組みづくりを含め、枠を取り払った体系にしてほしい。
委員	人口減少や経済縮小という現状を、町民や小規模事業者がどこまで理解できているか不安がある。 委員の発言にあったようにどこの市町でも同じことをやってる。同じ言葉同じ文章ということで、町の色が出にくい。もっと色を出してほしい。
委員	保育園と学校の接続活動など、実際には横の繋がりがあある。計画上でわざわざ分けなくてもいいのではないかな。
委員	シームレス教育について、この町だからこそその教育。個性だと感じる。 マトリクス図で縦軸・横軸で示す方法はどうかな？ 施策分野を達成すると地域活力の創出・基本理念につながり、この基本理念を達成できれば目指す将来像となる。といった、説明ができる（流れが分かる）仕立てにした方が良くないかな。
委員	町民目線ではワクワク感がない。 写真やイラストを用いた分かりやすいものにしてほしい。
委員	従来通りのその総合計画の形だと読まれない。「読まれない計画」では意味がない。子どもでも理解できるような、絵本やプロモーションビデオのような形式での周知も検討すべき。
委員	第2次計画の評価が反映されている点は評価する。将来像も、第2次計画よりはイメージしやすくなったと感じる。
会長	行政組織として動かす以上、縦割りの「分野別」の施策は必要。それとは別に全体に占めるウエイトは小さいが、「理念」に基づく分野横断的な事業展開も必要。具体的な事業は総合計画には書けないが、基本計画に分野横断的な事業展開をしていくことを示すべきである。
オブザーバー	人口減少という大きな課題に対し、行政と町民が一体となって挑戦する姿勢が示されており、方向性は良い。 「ウェルビーイング（幸福度）」の追求は県の幸福度日本一の取り組みとも合致する。

会長	将来像の実現に向けて、基本計画に具体的なアクションや政策が落とし込まれていくことを期待する。 以上をもって、議事は終了とする。 （４．閉会）
----	---

上記に相違ないことを確認する。

委員長 小泉 祐一郎